

彙 報

会 長 上 野 善 道

2008 年度第 2 回常任委員会

日 時：2008 年 10 月 5 日(日)11:00～18:00

場 所：東京大学文学部 3 号館 6 階言語学研究室

出席者：上野善道(会長), 林 徹(事務局長), 上山あゆみ, 風間伸次郎, 菊地康人, 窪菌晴夫, 田野村忠温, 柘植洋一, 早津恵美子

オブザーバー：影山太郎(編集委員長), 井上 優(大会運営委員長), 郡司隆男(広報委員長), 三原健一(夏期講座小委員会委員長), 呉人 恵(「危機言語」小委員会委員長), 三村竜之(事務局長補佐)

[報告事項]

(1) 会員データ調査票の発送について

2008 年 10 月 3 日現在(10 月 10 日メ切)で約 900 人から回答が得られており, 前回(3 年前)よりも出足は好調。返信用封筒が調査票に対して小さすぎたのではないかとの意見が出席者から出された。次期執行部に引き継ぐこととした。

(2) 学会連合について

2008 年 7 月 22 日, 第 2 回の会合を開き, 年内に正式にワーキンググループを立ち上げて, 代表者を選出することを決めた。今後は, 原則としてワーキンググループ内で話を進め, 適宜, 各学会の会長と連絡を取っていく形をとる方針である旨が会長より報告された。

(3) 日本学術振興会による実地検査について
10 月 24 日 10 時より, 日本学術振興会の担当者により, 中西印刷学会フォーラムにおいて実施の予定。日本言語学会からは事務局長と糸魚川共子氏(中西印刷)が出席の予定。

(4) 各種委員会からの報告

・編集委員会

『言語研究』134 号の編集, 印刷状況に

ついて報告があった。また, 『言語研究』の国際化を図るべく, ヨーロッパのジャーナリストに登録を申請中である旨が報告された。

・大会運営委員会

2008 年度秋季大会の準備の進行状況に関して大会運営委員長より報告があった。郵送した採否通知の受理をメールで確認したが, 海外に滞在している郵便物の確認ができないケースが数件あることが判明。郵送以外の通知方法を今後検討していく必要がある。また, 2009 年春季大会の準備の進行状況についても併せて報告があった。

・広報委員会

広報委員長より次期執行部の発足に合わせて新たな委員の人選が進行中である旨が報告された。

・危機言語小委員会

日本言語学会第 136 回大会にて開催されたワークショップについて報告があった。「関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3」というテーマで開催。発表者は加藤重広(日本語), 市橋久美子(ユーマ語族), 加藤昌彦(ポー・カレン語), 呉人恵(コリヤーク語)の 4 名。200 名ほどの参加者があった。

また, 日本言語学会第 137 回大会にて特別展示を主催する旨が報告された。「フロンティアからの眼差し Part 2」という題目で, 危機言語に携わる主に若手の研究者が中心となり, ポスター発表を行う。さらに, 現在準備を進めている公開シンポジウムについても報告があった。タイトルは「日本のなかの危機言語——アイヌ語, 琉球語, 本土方言」。日時は 2009 年 3 月 14 日(土) 13:00～17:00。東京大学本郷キャンパス(法文二号館 1 番大教室)にて。講演者は, 角田太作(総論), 佐藤知己(アイヌ語), 日高水穂(秋田方言), 西岡敏(琉球語)。

・夏期講座小委員会

夏期講座 2008 について, 詳細な決算報

告とともに、活動報告があった。夏期講座の決算報告は次号に掲載の予定。また、メンバーの変更を調整中である旨が報告された。

- (5) 2009年度大会開催校について
春季大会は神田外語大学（長谷川信子実行委員長）にて6月20日、21日に開催予定。秋季大会は神戸大学（西光義弘実行委員長）にて11月28日、29日に開催予定である旨が会長より報告された。
- (6) 寄贈図書お断りの文面について
学会ホームページには「日本語学会への図書の寄贈はご遠慮いたします」と示すにとどめる方針が了承された。

[審議事項]

- (1) 再入会の条件について
会費未納者として退会した元会員が再入会する場合の未納会費の扱いを明確にするために、現行の「会費未納者の取り扱いについて」を修正する必要がある旨が事務局長より提案された。提案された文面は、メーリングリストでの討議の中でさらに修正を加えて委員会にかけの旨が提案され、了承された。
- (2) 非会員の『言語研究』への投稿について
シンポジウムの講演者に『言語研究』への投稿を依頼したいが、現行投稿規程では非会員には認められないことになっている。学会の国際化と将来の学会連合を見据えて、海外の著名な研究者のみならず広く一般的に適用できる原則を設けるべく、新たに内規を設けたい旨が編集委員長より提案された。討議の後、内規は委員会にて審議を行うこと、また投稿規程の改定は次期編集委員会の継続検討事項とすることで了承された。
- (3) 『言語研究』掲載記事の転載依頼への対応と転載の記録の保管について
論文転載の許諾依頼があり、「著作物取り扱い規程」に従い事務局で対応したが、今後のケースに備えて広報委員会として一貫した対応策を提案したい旨が広報委

員長より報告された。

今回使用した書類をひな形とし、今後は書面とメールの両方で対応していく方針。また、Web上で依頼を受けることも視野に入れて検討を進めていくことが提案され、了承された。

- (4) 小委員会委員の任期について
小委員会の運営を円滑にすすめていく上で、現行の小委員会内規の改定を行い、現時点では定められていない委員長並びに委員の任期を定めたい旨が会長より提案された。討議の後、委員会に提案することが了承された。
- (5) 大学評価学位授与機構からの機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼について
大学評価学位授与機構より機関別認証評価委員会専門委員の候補者（1名から10名）の推薦依頼の文書が送られてきた。諸条件を考慮して会長から8名の候補者案が出され、了承された。

2008年度第2回委員会

日時：2008年11月29日(土)10:45～12:30
場所：金沢大学角間キャンパス北地区人間社会2号館3階第1会議室

出席者：上野善道（会長）、林 徹（事務局局長）、井上 優、上山あゆみ、生越直樹、影山太郎、風間伸次郎、梶 茂樹、加藤重広、菊地康人、工藤真由美、久保智之、窪田晴夫、熊本 裕、呉人 恵、郡司隆男、小泉政利、坂原 茂、坂本 勉、坂本比奈子、清水克正、杉浦滋子、田窪行則、田野村忠温、玉岡賀津雄、柘植洋一、角田太作、津曲敏郎、西山佑司、野田尚史、早津恵美子、藤代 節、藤本幸夫、堀江薫、益岡隆志、三原健一、湯川恭敏、吉田豊、渡辺 己（以上39名）

委任状：20名

オブザーバー：井上和子（顧問）、庄垣内正弘（顧問）、新田哲夫（第137回大会実行委員長）、長谷川信子（第138回大会実行委員長）、佐藤昭裕（会計監査委員）、吉田和彦（会計監査委員）、三村竜之（事

務局長補佐)

[報告事項]

- (1) 第 137 回大会 (2008 年度秋季大会, 金沢大学) について
 会長より金沢大学へ謝意が表された後, 大会実行委員長の新田哲夫氏より挨拶があった。
- (2) 2009 年度大会開催校について
 第 138 回大会 (2009 年度春季大会) が 6 月 20 日, 21 日に神田外語大学で開催されることが報告され, 大会実行委員長の長谷川信子氏より挨拶があった。また, 第 139 回大会 (2009 年度秋季大会) は神戸大学で 11 月 28 日, 29 日に開催予定であることが報告され, 大会実行委員長の西光義弘氏に代わって窪蘭晴夫氏から挨拶があった。
- (3) 会員データ調査票の発送について
 団体会員を含む約 2200 人の会員に対して会員データ調査票を発送した。事務局の集計では, 会員データが約 1200 弱, アンケートが 1030 弱回収されている。アンケートの結果をどう利用するかは次期執行部に委ねる旨が会長より報告された。
- (4) 役員選挙の日程について
 役員選挙の日程に関して会長より報告があった。なお, 会員に郵送した選挙人名簿に在住地の誤りが 1 件 [最終的には 2 件] あり, 投票用紙郵送の際に訂正を通知した。
- (5) 学会連合について
 学会連合の進行状況ならびに今後について会長より報告があった。7 月 22 日, 第 2 回の会合を開いた。続いて 12 月 26 日に会合を開き, 正式にワーキンググループを立ち上げて, 代表者を選出する予定。今後は, 原則としてそのワーキンググループ内で話を進め, 適宜, 各学会の会長と連絡を取っていく形をとる。
- (6) 科学研究費補助金に関する実地調査について
 10 月 24 日 10 時より, 日本学術振興会

の担当者により, 中西学会フォーラムにおいて実施されたことが会長より報告された。日本言語学会からは事務局長と糸魚川氏 (中西学会フォーラム) が出席。特に書類等の不備はなかったが, 中西学会フォーラムを運営する中西印刷との関係に注意するよう指摘があった。

- (7) 大学評価学位授与機構機関別認証評価委員会専門員候補者の推薦について
 大学評価学位授与機構から依頼を受け, 会長が推薦をしてすでに個別に了承を得ている旨が報告された。辞退者が出たため, 結果としてその数は 5 名となった。
- (8) 各種委員会の活動報告
 - ・編集委員会
 『言語研究』第 134 号について編集委員長より報告があった。また, 第 135 号の編集状況ならびに第 136 号の特集論文の執筆者を選出中であることも報告された。さらに, 『言語研究』の国際化を図るべく, ヨーロッパで編まれているジャーナルのリストに『言語研究』の追加を申請中であることが報告された。
 - ・広報委員会
 第 137 回大会のプログラムの Web への掲載作業が滞りなく進んだ旨が報告された。また, 『言語研究』掲載論文の転載依頼があり, 著作権等も含めて広報委員会がとってきた対応について報告があった。さらに, 『言語研究』第 100 号から第 127 号までの電子アーカイブ化が終了しており, JST (科学技術振興機構) にて公開されていることが報告された。この後も, 第 1 号から第 99 号に関して作業を継続していく。
 - ・大会運営委員会
 第 137 回大会の応募者数, 採択数等に関して大会運営委員長より報告があった。なお, 応募者に郵送した採否通知の受理を確認するためメールを配信したが, 海外に滞在しているために郵便物の確認がとれないケースが数件あった。今後は郵送以外の方法を検討していく必要がある。

・夏期講座小委員会

2008年8月19日から8月24日にかけて京都大学文学部にて開催された夏期講座に関して報告があり、開催校である京都大学に小委員会委員長より謝辞が述べられた。また、小委員会の委員に関して、3名の辞退申し出をうけて2名の補填を検討中であることが併せて報告された。

・「危機言語」小委員会

日本言語学会第136回大会にて開催されたワークショップに関して小委員会委員長より報告があった。「関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3」というテーマで、発表者は加藤重広(日本語)、市橋久美子(ユーマ語族)、加藤昌彦(ポー・カレン語)、呉人 恵(コリャーク語)の4名。200名ほどの参加者があった。また、日本言語学会第137回大会にて特別展示を主催することが併せて報告された。「フロンティアからの眼差し Part 2」という題目で、危機言語に携わる若手の研究者を中心にポスター発表の形式で行う。山田敦士(パラウク・ワ語)、山田祥子(ウイльта語)、安倍麻矢(マア語)、大塚行誠(ティディム・チン語)の4名。さらに、公開シンポジウムに関しても報告があった。タイトルは「日本のなかの危機言語——アイヌ語、琉球語、本土方言」。日時は2009年3月14日(土)13:00～17:00。東京大学本郷キャンパス(法文二号館1番大教室)にて。講演者は、角田太作(総論)、

佐藤知己(アイヌ語)、日高水穂(秋田方言)、西岡 敏(琉球語)。

[審議事項]

(1) 編集委員会内規について

『言語研究』の国際化を見据えて、シンポジウム講演者など非会員の研究者にも投稿を依頼できるよう、新たに編集委員会の内規を定めたい旨が編集委員長より報告され、承認された。(別記1)

(2) 再入会の条件(会費未納者の取り扱い)について

会費未納者として退会した元会員が再入会する場合の未納会費の扱いを明確にするために、「会費未納者の取り扱いについて」の第2項を改定するとともに、第3項の追加をする旨が提案された。審議の後、原案どおり承認された。(別記2)

(3) 小委員会委員の内規について

各小委員会の運営を円滑に進めるために、現行の内規では定められていない委員長と委員の任期を定めたい旨が会長より提案された。審議の後、原案どおり承認された。(別記3)

(4) 小委員会の今後について

各小委員会の任務とそのあり方について審議する必要がある旨が会長より提案された。討議の後、各小委員会を将来的に通常の委員会にすることを前提として検討を継続してもらう旨を次期執行部に申し送ることで承認を得た。

【別記1】 編集委員会内規

海外および国内他学会との交流を促進するため、以下の条件で非会員にも投稿を認めることとする。

学会が大会の講演・シンポジウムの講師を依頼した場合に限り、特例として非会員であっても投稿を認めることができる。認めるは、その講演・シンポジウムを聞いた編集委員の意見を踏まえて編集委員長がおこない、投稿論文は査読を受けるものとする。原稿料は支払わない。

(2008年11月29日委員会承認)

【別記2】 会費未納者の取り扱いについての改定

- | 旧 | 新 |
|--|--|
| <p>1 その年度の『言語研究』の最初の号が発行されるまでに、その年度の会費を納めていない会員は、『言語研究』の発送が停止される。</p> <p>2 <u>その年度の『言語研究』の最初の号が発行されるまでに、前年度の会費を納めていない会員は、退会したものとみなす。</u></p> | <p>1 その年度の『言語研究』の最初の号が発行されるまでに、その年度の会費を納めていない会員は、『言語研究』の発送が停止される。</p> <p>2 <u>3月末日までに、その年度と前年度の2年分の会費が未納の会員は、同日をもって退会したものとみなす。</u></p> <p>3 <u>会費未納のまま退会した元会員が再入会を希望する場合は、再入会時に当該年度の会費と合わせて未納分の会費を納めるものとする。</u></p> <p style="text-align: right;">(1984年6月9日委員会決定)
(1985年10月12日修正案可決)
(2004年6月19日修正案可決)
(2008年11月29日修正案可決)</p> |

【別記3】 小委員会内規の改定

- | 旧
小委員会内規 | 新
小委員会内規 |
|---|--|
| <p>1 小委員会は、特定の検討事項が発生した時点において、<u>会長がその必要を認めた場合に、委員会の承認を経て設置される。</u></p> <p>2 <u>小委員会委員の選出は、委員会からの推薦を受けて会長が取り纏め、委員会の承認を経て行われる。会計監査委員は、小委員会の委員を兼ねることが出来る。</u></p> <p>3 <u>委員長の選出は、小委員会のメンバーの互選による。</u></p> <p>4 <u>小委員会は、その目的が達せられた時点、または会長がその必要性がなくなったと判断した時点において、委員会の承認を経て解散される。小委員会委員および委員長の任期は小委員会で決める。</u></p> | <p>1 小委員会は、<u>特定の検討事項が発生し、会長がその必要を認めた場合に、委員会の承認を経て設置される。</u></p> <p>2 <u>小委員会の委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。</u></p> <p>3 <u>小委員会の委員長は、会長と協議のうえ、個人会員中より小委員会委員を指名委嘱し、小委員会を組織する。会計監査委員は、小委員会委員を兼ねることが出来る。</u></p> <p>4 <u>委員長の任期は3年とし、1期に限る。委員の任期は3年とし、引き続き2期までの重任、ならびに、期を隔てての再任は妨げない。</u></p> |

- 5 小委員会は、その活動の企画立案ならびに運営については独立性をもつが、活動状況においては委員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。
- 6 特別な予算執行を伴う企画については、小委員会が前年度のうちに会長に諮り、予算の計上を申し入れる。

- 5 小委員会は、その活動の企画立案ならびに運営については独立性をもつが、活動状況を委員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。
- 6 特別な予算執行を伴う企画については、小委員会が前年度のうちに会長に諮り、予算の計上を申し入れる。
- 7 小委員会は、その目的が達せられた時点、または会長がその必要性がなくなると判断した時点において、委員会の承認を経て解散される。

(備考) この改訂は2009年4月1日より適用する。

(1998年10月31日委員会決定)

(2004年6月19日修正案可決)

(2008年11月29日修正案可決)

2008 年度第 2 回「危機言語」小委員会

日時：2008 年 11 月 29 日(土)15:30～17:00
場所：金沢大学人間社会 2 号館 3 階第 1 会議室

出席者：金子 亨, 呉人 恵, 坂本比奈子, 佐々木冠, 白石英才, 田村すゞ子, 千葉庄寿, 角田太作, 中山俊秀, 渡辺 己 (計 10 名)

[報告事項]

- ・委員会報告
同日午前中に開かれた委員会での報告事項ならびに審議事項についての報告がなされた。
- ・第 137 回大会における特別展示について
11 月 30 日におこなわれる「危機言語」小委員会企画の特別展示の準備状況について報告がなされた。
- ・シンポジウムについて
2009 年 3 月 14 日(土)におこなわれる公開シンポジウム「日本の中の危機言語——アイヌ語・琉球語・本土方言」についての準備状況の詳細が報告された。

[審議事項]

委員会での小委員会内規改定を受け、「危機言語」小委員会の各委員のこれまでの任期等を踏まえて、小委員会組織の改編について検討がなされた。また、現委員長の任

期が今年度で終わるため、これまでの活動の総括と反省、今後の「危機言語」小委員会のあり方についての検討がなされた。後者については、年度末まで引き続き検討を続けて、2009 年 3 月 14 日(土)に開催予定の小委員会で最終案を示し、来年度の委員会に提出することで合意をえた。

2008 年度第 2 回夏期講座小委員会

[活動報告]

夏期講座小委員会は、2008 年 6 月 20 日の第 1 回夏期講座小委員会以降は、審議すべき事項が生じるごとにメールによる審議を行っている。決定した事項は以下の通りである。

- (1) 夏期講座 2010 は北海道大学を中心に札幌で開催する予定である。
- (2) 長期に亘り委員を務めた荻野綱男委員、西光義弘委員、坂原茂委員から辞任の申し出があり、これを承認すると共に、後任として加藤重広氏(北海道大学)を加えることとした。加藤委員は夏期講座 2010 の実行委員長を兼ねる。なお、辞任する委員は 3 名であるが、今回は 2 名のみ補充することとし、もう 1 名については今後人選の上、次回の日本言語学会委員会において正式決定する。

第 137 回大会

期 日 2008 年 11 月 29 日 (土)・11 月 30 日 (日)

会 場 金沢大学

公開講演 11 月 30 日 10:00 ~ 12:05

1 朝鮮漢字音アクセントの歴史的発展と類推変化

伊藤智ゆき

2 フィリピン言語学の現在

北野 浩章

公開シンポジウム 11 月 30 日 13:10 ~ 15:40

言語変化のモデル

頻度が形作る活用形態の(不)規則性—用法基盤モデルの観点から—

上原 聡

言語変化の S 字カーブの計量的研究—解析手法と分析事例の比較—

真田 治子

文化化を起こす認知能力・バイアスの検討—構成的手法によるモデル化—

橋本 敬

口頭発表・ワークショップ 11 月 29 日 13:00 ~ 18:00

。A 会場

(A 1) 13:00~ 接続名詞句の「擬似的」選言解釈

田中 大輝

林下 淳一

(A 2) 13:35~ トートロジーにおける「言われていること」と「含意
されていること」の反転

酒井 智宏

(A 3) 14:15~ 英語の語形成と V-A 型の結果表現

長野 明子

島田 雅晴

(A 4) 14:50~ Qualia を用いた英語形容詞の意味分析

宮田 洋介

ワークショップ 1

15:40~

名詞化辞「の」と「 ϕ 」の交替現象 企画・司会 堀江 薫
—日本語史・形式主義言語学・機能主義言語学のイン
ターフェイス—「 ϕ 」(準体句)から準体助詞「の」へ—何が問題か?—

仁科 明

「の」と空範疇の交替について—統語論からの視点—

吉村 紀子

機能主義的類型論からみた「の」と「 ϕ 」の交替現象

堀江 薫

。B 会場

(B 1) 13:00~ Motivations behind *face-work* by native Japanese speakers
in conflict situations between self and other

Sachiko KIYAMA

Katsuo TAMAOKA

Masato TAKIURA

(B 2) 13:35~ 文理解における情報構造と統語構造の交互作用が生じ
るタイミングについて

今村 怜

小泉 政利

(B 3) 14:15~ 日本語母語幼児のとりたて詞「だけ」の解釈における
「目的語指向性」

白畑 知彦

久野美津子

ワークショップ 2

15:40~

日本語におけるガ・ノ交替現象 企画・司会 中井 悟
ガ・ノ交替と焦点 原田なをみ
格の交替と統語的局所性 越智 正男
ガ・ノ交替への認知文法アプローチ 小熊 猛

ガ・ノ交替の心理言語学的分析—self-paced reading methodを用いた即時処理モデルに基づくノ格主語構文の処理の研究—

祐伯 敦史

。 C 会場

- (C 1) 13:00～ Taya 語の属格名詞と語順の普遍性 時崎 久夫
桑名 保智
- (C 2) 13:35～ スワヒリ語の語順と接尾辞の出没 桑名 保智
- (C 3) 14:15～ バントゥ諸語における適用形動詞の種類と目的語対称性 品川 大輔
米田 信子
- (C 4) 14:50～ 名詞句に「主要部」という概念は必要か?—Sidaama (Sidamo) 語のクリティックによって形成される名詞句— 河内 一博

ワークショップ 3

- 15:40～ 形容詞の特質をめぐって—一言語類型論的観点 企画・司会 龍城 正明
から見た形容詞と形容詞の意味化分析—
日英語形容詞の形態・統語特性に関する分析 綾野 誠紀
形容詞の静的意味と動的意味における多義性 藤田 透
形容詞の述語表現における日英比較 佐々木 真

。 D 会場

- (D 1) 13:00～ モンゴル語の動詞語尾 -laa と -jee について—コーパスに基づく分析— ジンガン
- (D 2) 13:35～ モンゴル語の補助動詞構造《V-CVBög》について スチンガルラ
- (D 3) 14:15～ モンゴル語の受身接辞-GD を伴う動詞の意味 梅谷 博之
- (D 4) 14:50～ 保安語積石山方言における存在の助動詞 vi/va について 佐藤 暢治
- (D 5) 15:40～ Empty nuclei in Nivkh Hidetoshi SHIRAIISHI
- (D 6) 16:15～ シベ語の語り (narrative) における補助動詞 bi の機能と視点 児倉 徳和
- (D 7) 16:55～ ツングース祖語における接近音について 風間伸次郎
- (D 8) 17:30～ アナトリア祖語とモーラ 吉田 和彦

。 E 会場

- (E 1) 13:00～ 朝鮮語江陵方言のアクセント 孫 在賢
- (E 2) 13:35～ 中国黒龍江省尚志市で話される朝鮮語のアクセント 李 文淑
- (E 3) 14:15～ 長崎二型音調の音声実現に関する予備的検討 松浦 年男
- (E 4) 14:50～ 山口方言の撥音と長音を含む語の産出におけるアクセント核の有無と発音持続時間に関する世代間比較 池田 史子
玉岡賀津雄
林 炫情
- (E 5) 15:40～ 日本語の外来語アクセントに対する構文文法的アプローチ—「オセアニア」と「バラノイア」のアクセントからの傍証— 儀利古幹雄
森下 裕三
- (E 6) 16:15～ 南琉球宮古伊良部島方言におけるフット構造 下地 理則
- (E 7) 16:55～ 小林方言における音韻句の形成と統語構造の関わりについて 佐藤久美子
- (E 8) 17:30～ 日本語の韻律句境界とフォーカス 倉橋 農

◦ F 会場

- (F 1) 13:00～ トルコ語とウズベク語の疑問接語 mI/mi は文法的に 異質か 吉村 大樹
- (F 2) 13:35～ アミ語の態 今西 一太
- (F 3) 14:15～ ラマホロット語の方向表現 長屋 尚典
- (F 4) 14:50～ On the distribution of nominative and genitive case in modern Bengali Hideki MAKI
Kenichi GOTO
Mohammed Joyal ABEDIN

ワークショップ 4

- 15:40～ 《所有者受動》再考 企画・司会 鷺尾 龍一
文法記述における「所有者」の概念をめぐって 齊木美知世
朝鮮語における「所有者受動」をめぐって 生越 直樹
モンゴル語における「所有者受動」をめぐって 梅谷 博之
「所有者受動」と受動表現の類型をめぐって 鷺尾 龍一

◦ G 会場

- (G 1) 13:00～ 現代アイスランド語の“New” impersonal 構文における 対格名詞句について 大宮 康一
- (G 2) 13:35～ The comparative construction in modern Irish Dónall P.Ó. BAOILL
Hideki MAKI
- (G 3) 14:15～ 古サルデーニャ語における完了形の形成法の移行につ 金澤 雄介
いて
- (G 4) 14:50～ エストニア語の動詞 pruukima 「必要だ；用いる」の 松村 一登
多義性—コーパスと辞書の記述に基づく考察—

ワークショップ 5

- 15:40～ 英語と日本語の好まれる事態把握—〈結果志向〉 企画 谷 みゆき
と〈過程志向〉の動機づけ— 司会 井上 逸兵
「志向」はどこから来るか—Go と「行く」の事例— 出原 健一
事態把握とイディオムの生成—句表現に見られる 八木橋宏勇
〈結果志向〉と〈過程志向〉—
英語・日本語における結果の構文化—完了構文と「… 谷 みゆき
テイル／…テアル」の比較—
日英の新聞報道における言語使用と事態把握 多々良直弘

◦ H 会場

- (H 1) 13:00～ 日本語の「なるまで」構文分析—結果構文の視点から— 石井 創
- (H 2) 13:35～ 分裂文としての「のだ」文 備瀬 優
- (H 3) 14:15～ 日本語軽動詞構文における項構造と 2 つの対格制約 内芝 慎也
- (H 4) 14:50～ The amount of an event in the Japanese Floating Hironobu HOSOI
Quantifier Construction
- (H 5) 15:40～ 意味的再帰性条件 (“Condition R”) 再考 三浦 秀松
- (H 6) 16:15～ 再構築現象における順序効果と摘出領域の形成 小町 将之
- (H 7) 16:55～ 関係節構文における量化詞の作用域の再構築効果につ 稲田俊一郎
いて

(H 8) 17:30～ エヴェ語のロゴフォリック代名詞—視点投射とコントロール— 西垣内泰介
折田 奈甫

ポスター発表・特別展示 11月30日

◦ I会場

Influence of first-element and dialect region on voice-or-voiceless decisions of <i>sboochuu</i>	Katsuo TAMAOKA Fumiko IKEDA
外国語のコミュニカティブ・コンピテンス能力を高める共生的アプローチ	水野 晴光
韓国語助動詞 <i>cita</i> の分析に基づく多義性の決定過程モデル	円山 拓子
ヒンディー語とムラブリ語の属格所有表現	今村 泰也 坂本比奈子
事態把握の観点から見た一人称主体の「ト思っている」表現	林 佩怡
	上原 聡

◦ J会場

特別展示「フロンティアからの眼差し Part 2」

	企画 危機言語小委員会
マア語の2つの変種内の「バントゥー化」	安部 麻矢
ティディム・チン語の人称標示	大塚 行誠
ブラン族の動物世界—言語データを援用した文化研究—	山田 敦士
方言差をどう「書く」か—ウイルト語文字教本の表記と今後の記述研究—	山田 祥子

日本語学会 2009～2011 年度役員選挙の結果について

2009～2011 年度役員（会長、編集委員長、会計監査委員、委員）の選挙を、会則・選挙規則および選挙細則に基づいて、以下の日程で行った。

2008 年 11 月 21 日（金） 選挙人名簿発送

2008 年 12 月 12 日（金） 投票用紙発送

2009 年 1 月 19 日（月） 投票締め切り（当日消印有効）

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：2009 年 1 月 25 日（日） 10:00～16:00

場 所：東京大学文学部 3 号館 6 階言語学研究室

出席者：上野善道（選挙管理委員長）、井上 優、荻野綱男、生越直樹、風間伸次郎、

坂本比奈子、外池滋生、日比谷潤子

オブザーバー：林 徹（事務局長）、三村竜之（事務局長補佐）

開票結果は以下の通り

投票総数	179	うち有効投票数	168
		無効	11

1. 会長選挙

投票数	155	うち有効投票数	147
		白票	6
		無効（白票を除く）	2
当選	影山太郎	35 票	
次点	梶 茂樹	28 票	
次々点	田窪行則	18 票	

2. 編集委員長選挙

投票数	157	うち有効投票数	146
		白票	9
		無効（白票を除く）	2
当選	窪菌晴夫	20 票	
次点	林 徹	11 票	
次々点	梶 茂樹	10 票	

3. 会計監査委員選挙

投票数	312 (156×2)	うち有効投票数	270
		白票	31
		無効（白票を除く）	11
当選	林 徹	24 票	
当選	田窪行則	15 票	
次点	菊地康人	9 票	
次々点	金水 敏	9 票	

4. 委員選挙

選挙細則に基づき、当選者のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北海道] (定数2名) 加藤重広, 佐々木冠

[東北] (定数3名) 小泉政利, 後藤 斉, 堀江 薫

[関東] (定数30名) 池田 潤, 伊藤たかね, 井上史雄, 井上 優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 風間伸次郎, 菊地康人, 熊本 裕, 坂原 茂, 城生佰太郎, 杉浦滋子, 砂川有里子, 高見健一, 玉岡賀津雄, 角田太作, 西村 義樹, 西山佑司, 長谷川信子, 早津恵美子, 日比谷潤子, 福井直樹, 松村一登, 峰岸 真琴, 鷺尾龍一

[中部] (定数9名) 青柳 宏, 呉人 恵, 佐久間淳一, 澤田治美, 清水克正, 柘植洋一, 新田哲夫, 町田 健, 油谷幸利

[近畿] (定数17名) 梶 茂樹, 金水 敏, 工藤真由美, 窪菌晴夫, 郡司隆男, 定延利之, 佐藤昭裕, 庄垣内正弘, 武内紹人, 田野村忠温, 野田尚史, 藤代 節, 益岡隆志, 三原健一, 藪 司郎, 山梨正明, 吉田和彦

[中国・四国] (定数5名) 酒井 弘, 塚本秀樹, 辻 星児, 和田 学

[九州・沖縄] (定数4名) 上山あゆみ, 江口 正, 久保智之, 坂本 勉

なお、影山太郎（近畿地区）、林徹（関東地区）、田窪行則（近畿地区）の3氏は委員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により委員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。また、関東地区と中国・四国地区でそれぞれ1名ずつ辞退者があったが、選挙規則により補充はしない。

◇退 会

国内通常会員	33名
国内学生会員	7名
国内団体会員	2名
在外通常会員	1名
在外維持会員	1名